

経済分野で実践する 主体的・対話的で深い学び  
 ～T P Pを題材とした課題探求学習の試み（2015 年度実践）～

大阪市立東三国小学校  
 教諭 安野 雄一

(1) はじめに

A I の出現と進化、18 歳選挙権の導入、COVID-19 の世界的流行など、世界の変化がめまぐるしく、急速に変化する中において、どんな状況においても子どもたち一人ひとりが「よりよい未来をつくり続ける力」を育成していく必要がある。よりよい未来を切り拓こうとするとき、人は必ず何らかの価値判断・意思決定をしている。本実践（2015 年度）では、小学 5 年生における 1 年間の学習が終わりにさしかかった 3 月に、T P P と日本を巡る情勢や農業・工業などといった産業の立場、生産者と消費者の立場など、様々な面から T P P と日本を取り巻く現状を多面的・多角的に俯瞰して見ていくようにした。その中で、価値判断・意思決定力をどのようにして育成するのか、また経済分野の事象についてどのように学びを紡いでいくとよいのかということ念頭に置きながら、計画カリキュラムを柔軟に修正しながら、本単元の学習を進めていった。子どもたちの学びや思考の流れをどのように見取り、カリキュラムの修正に活かすのか、そして、指導の実際と本実践において子どもたちの思考にどのような変容が見られ、何を得たのか検証するとともに、本実践（2015 年度）の成果と課題を明らかにし、2020 年代に入った今と未来の経済教育に活かす道筋を描きたい。

(2) 評価の方法（単元を貫く価値判断とその見取り）

●ふりかえりシート（ポートフォリオ評価）

5 - ( ) - ( ) 名前( )

**感想** 現在の T P P に対する考えや分かったこと、疑問、学習したいことなどをまとめましょう。

---



---



---

図 1 使用した「ふりかえりシート」

各授業の終わりにその時間の学習を振り返り、教師が座席表の形に整理し、次時の始めに子どもたちに配布し、前時の段階で学級の友だちがどのように考えていたのかを共有するようにした。子どもたち自身や教師にとっては毎時間の自分たちの思考の変容を捉えることができたようにした（ポートフォリオ評価）。また教師は子どもたちの思考の変容を捉えると同時に、それ以降の単元

5年3組 授業表 2016.03.04  
 第1時 「お米がまなびの場から、TPPを考えよう」

時	1	2	3	4	5
1	導入 お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。
2	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。
3	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。
4	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。
5	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。	お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。お米がまなびの場から、TPPを考えた。

図 2 座席表に整理した例



### (3) 学習内容・方法（自己内対話と他者との対話、教材との対話、本物との対話）

#### ①単元の目標

##### ●知識及び技能

人々の営みと経済の関係について理解するとともに、様々な資料や活動を通して情報を適切に調べ、まとめる技能を身に付けることができる。

##### ●思考力・判断力・表現力等

人々の営みと経済の関係について多面的・多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりすることができる。

##### ●学びに向かう力

TPPの是非を多面的・多角的に見つめることを通して、地域経済の過去と現在、未来について調べて考え続け、よりよい社会を「そうぞう」し、自己の生活に活かしたり地域社会とつながりを持とうとしたりする。

#### ②学びの構造・学びの場の設定

図1に示すように、子どもたちが様々な視点・立場から多面的・多角的に俯瞰して対象を見つめて考え、価値判断していくことができるように各単元の学習を構造化していくことが大切である。

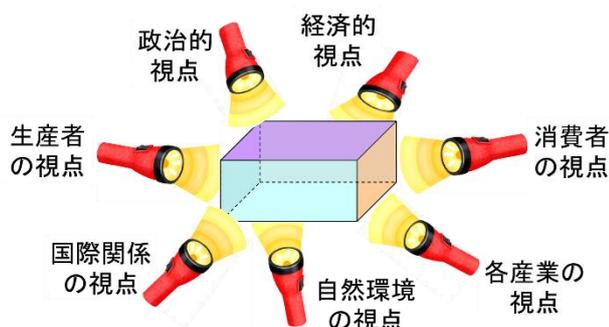


図5 学びの構造

また、子どもたちが対象を様々な角

度から調べて考えられるように、図2に示すように、地域図書館などと連携して、関連する書籍に当たることができるようにしたり、ICTを活用してインターネットを介して世界中の情報を瞬時に集めたりすることができる場を整えておくなど、学びの場の設定をした。その際、「情報リテラシー」についても指導を行った。

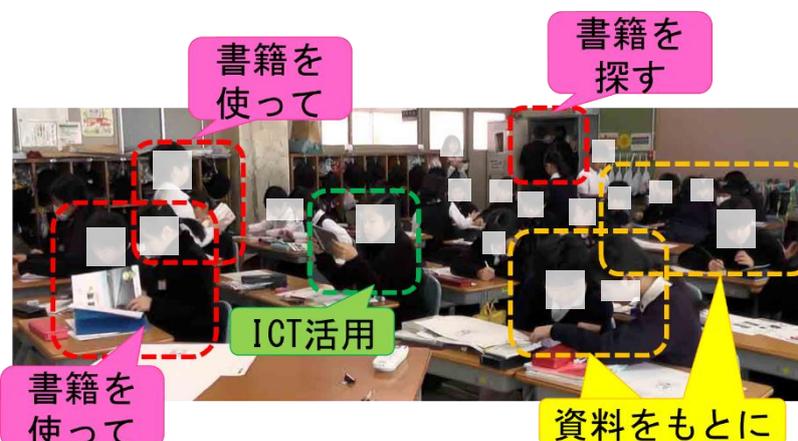


図6 様々な方法で対象について調べて考える場の設定

③実施カリキュラム・学習内容

第1時	TPP内容と経済効果、経済循環について考える
第2時	工業と環境の視点からTPPの是非を考える
第3時	生産者と消費者の視点からTPPの是非を考える
第4時	農業の視点からTPPの是非を考える（農家の方との意見交換）
第5時	様々な視点から多面的・多角的にTPPの是非を考える①
第6時	様々な視点から多面的・多角的にTPPの是非を考える②
第7時	これから先の未来について考える
第8・9時	レポートを作成する
第10時	レポートを交流する（他者評価） テスト評価

各授業とも、教師が様々な視点からTPPを見つめるためのきっかけとなる資料を提示し、それらを起点に書籍やICTを活用して情報を集めて考え、広い視野をもって考え、対話を通して思考を深めていくようにした。また、各授業の終末部にふりかえりシート(図1)を各際には、その時点までの学びを自分なりに整理し、どのように価値判断をしているかを書くようにした。第5・6時には、第1～4時の学習(図7)や1年間の学習をもとに、TPPを多面的・多角的に見つめて価値判断し、未来の社会の在り方について考えを進めていった。教師はこの間、子どもたちの思考の流れに寄り添い、計画カリキュラムや提示する資料を柔軟に修正しながら、本単元を展開していくようにした。

**★TPPとわたしたちのこれからを考えよう★**

参考文献: News がわかる! (毎日新聞社)

関税の役割～これまでの日本の貿易～

**輸入品は関税の分だけ高くなる**

チョコレート菓子 関税率10% 関税10円 110円

アメリカ輸出 日本

1個100円相当

1<sup>ドル</sup>300円

売れるわけないわ。輸出できないよ。関税がなかったらなあ...

アメリカ 関税341円

641円

関税の高いから、絶対守らなくては!

1<sup>ドル</sup>当たり関税341円

コム 関税341円

関税の高いから、絶対守らなくては!

**国内の産業を保護する**

関税はそれぞれの国が自主的に設けることができる。税率はモノごとに決められ、細かく分けられている。日本の場合、外国産の安いものがたくさん入ってくると売れなくなるコムなどの農産物に高い関税がかけられる。日本にない石油などの資源や、自動車など外国製との競争に負けないものは税率0%。つまり、輸入しても関税がかからない。

関税は、どこの国から輸入するかによっても違う。それぞれの国と貿易に関する取り決めをしているからだけ。

**高い関税がかけられるコム以外の農産物**

バター	360%	小麦	252%
砂糖	328%	豚脂粉乳	218%
大豆	256%	牛肉	38%

TPP(環太平洋パートナーシップ)交渉参加国

**貿易を増やして経済を活性化**

TPPの新しい参加国同士の間を結ぶ。経済活動を活性化してそれぞれ成長していくこと。そのためには、関税など壁となっているものを取り除き、貿易を増やしていく必要がある。そうした貿易の取り決めについての交渉が続いている。

**TPP参加の経済効果**

日本経済学会キッズサイト <http://www.jife.or.jp/>より

日本政府の試算では、TPPでこんなに利益がある！

国(日本)の立場から考えるとどうだろうか？

5年( )組( )番 名前( )

TPPが日本に与える影響はあるのかな？

**工業に従事する人たちの立場から考えると？**

工業に従事する人たちの立場から考えると？

**自動車などの輸出に有利**

自動車や電気製品などの輸出産業には有利に働く。参加国がかけていた関税がなくなるので、輸出しやすくなるからだ。また、さまざまな輸入品が安くなるため、値上げが続いている小売や乳製品は安めやすくなり、消費者は助かる。

**私たちが(消費者)の立場から考えると？**

**安くなるオーシービーフ**

オーストラリアと結び、今年1月に結んだTPPには、日本として初めて農産物の関税削減が盛り込まれた。1月16日の協力が生まれ、オーストラリアから輸入する牛肉(ステーキ用)の関税がゼロになり、日本でも輸出する牛肉(ステーキ用)の関税がなくなった。

外国との貿易自由化の進展があった時の日本の様子。TPPに参加すると同じようなことが起こる？

**食の安全は守れるのかな？**

**農家や酪農をする人たちの立場から考えると？**

**産物はピンチ!?**

大いに頼りが農産。食料自給率の低い日本では、農業を守るために高い関税をかけている。その関税が低くなり農産品が入ると、日本の農業は大ピンチになる。だから、コム、粟、肉、乳製品、砂糖の5種類の農産品については、関税をなくさないでよう交渉している。

**食料自給率は大丈夫なのかな？**

カロリーで考えると食料自給率は... 39% → 27%

輸入する時などに必ず等しいように量を減らしていることもある。

**経済の循環の様子**

政府 企業 家計 労働 金融・代理

輸入する時などに必ず等しいように量を減らしていることもある。

**環境問題は大丈夫なのかな？**

環境問題は大丈夫なのかな？

図7 第1～4時に提示した資料を集約した資料

TPPについて多面的・多角的に様々な視点から見つめていく際に、子どもたち一人ひとりが調べたり話し合ったりしながら考えたことを整理するワークシート（図8）にまとめていき、価値判断した上で未来への道筋を模索するようにした（図9）。

**TPPとわたしたちのこれからを考えよう**      5年（ ）組（ ）番 名前（ ）

《賛成派》

《反対派》

君はどの立場からどのように考えて、TPPに賛成？反対？みんなとの話し合いをまとめよう！



自分と逆の意見をもつ友だちの考えもまとめてみよう！

「なるほど！」と思った意見 だれの、どんな考えに納得した？

最終判断 わたしは最終的にTPPには（ ）です！  
《理由》

図8 第5・6時に使用したワークシート

第7時には、第6時（公開授業）で見てきた主に日本にとってTPPの課題となる点を解決しながらTPPとどう向き合っていくかを考えていった。そして最後は、子どもたち一人ひとりが学んできたことをもとに自分の立場を意識しながらレポートを作成して交流し、他者評価（図4）を加えるようにした。

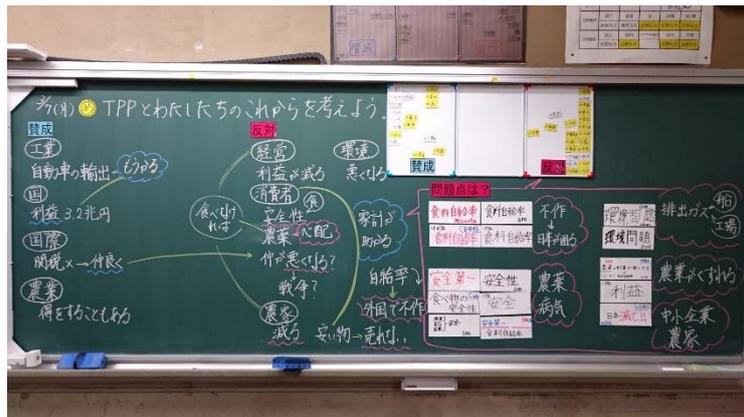


図9 第6時の授業の様子

(4) 検証の結果 (子どもの姿から)

① 主体的・対話的で深い学びの実現

本単元での学習を通して、全体的に子どもたちが主体的・対話的に学ぶ姿が見られた。これは、毎時間のふりかえりシートに記述した内容を交流することをはじめ、様々な場面で、子どもたちが他者の考えを聴き合い、話し合うことを通して、よりよい未来の社会の実現に向けて考えようとする姿 (図10) やワークシート (図11) などから見取れた。



図10 授業の随所で主体的に友だちと関わり合い思考を深める姿

② 俯瞰して多面的・多角的に、経済的な視点を中心として価値判断して未来を「そうぞう」しようとする姿

地理的・経済的内容について自ら調べ、思考する。

地理的・経済的内容について他者の意見と比較したり結び付けたりしながら、多角的視点から思考する。

**立場による効果・影響の違い**

思考の揺れの中で、地理的・経済的内容について多面的視点から価値判断

図11 多面的・多角的に思考を深め、未来を見通す姿

各授業において、教師は学ぶ様々な視点を得るきっかけとなる資料を提示するが、そこから自由に書籍やICTを活用して調べ、グループやペア、学級全体で自然と話し合いながら知識を広げ、思考を深めていくようにすることで、多面的・多角的に対象を見つめて価値判断し、未来を「そうぞう」していこうとする姿に繋がったと考えられる。

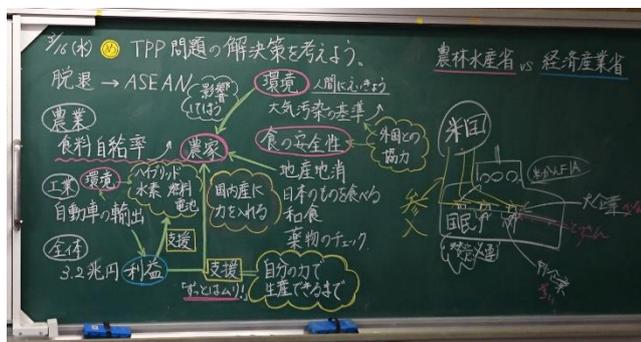


図12 子どもたちが対話をした軌跡

③ 思考の揺れの中で自分なりの価値判断をし、未来を「そうぞう」しようとする姿

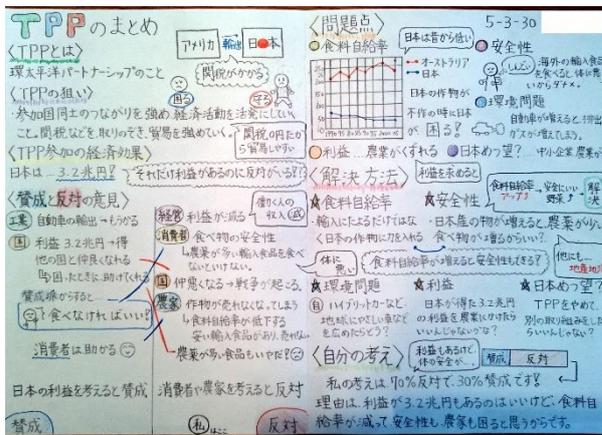


図13 レポートから見える思考の様子

教師が与える資料だけから学びを進めるのではなく、様々な方法で自分なりに情報を集めて考え、友だちや実際に社会的な事象と関わる人などと対話することで、より多面的・多角的に対象について思考を深めていくことになる。したがって、様々な視点から対象を見つめていくこととなるため、価値判断をする際に自ずと迷いが生じることとなる。本実践においては、多くの視点からTPPの是非について考え、未来を見通そうとすること

を通して、思考の揺れの中で自分なりの価値判断をし、未来の社会の在り方について道筋を立てようとする姿が見られた(図13)。

具体的な姿として、第1～3時までは、工業の面から考えると製品を海外に輸出することで企業としても国としても、日本にとってはプラスに作用するのではないかと考えている子どもが多く、海外から輸入することで安く食料品なども手に入るという消費者の視点に着目して、TPPに賛成の立場をとる子どもが多く見られた。しかし、第3・4時では、海外から安い製品や食料品等が輸入されてきたときの自国の産業を守るという視点(国内企業や国内の農家の立場)から、およそ半数の児童がTPPに反対の方へと価値判断の状況が変容する動きが見られた。第3時以降に意見の対立軸ができあがっていったものと言える。

このような第4時までの思考の変容があったことで、第5～6時では、様々な視点から意見が交わされ、友だちの話を聴いて、さらに自分の考えと比較したり統合したりして、TPPを進めていくのであれば、配慮すべき事象をクリアしていく必要があるのではないかと考えていった(図9)。そして第7時において、子どもたちは特に環境への配慮や農家への支援、食の安全に目を向けて考え、TPPを進めて行くのであればこれらの点を解決しながら進めていくべきだと思えるようになっていった(図12)。第8～10時で自分の立場をレポートにまとめて明確にしていく段階でも、様々な立場からTPPを俯瞰して多面的・多角的に見つめ直しながら、最後まで思考の揺れの中で迷いながらも自分なりに価値判断をし、未来への道筋を考えていく姿が見られた。したがって、100%TPPに賛成する子どもや100%TPPに反対するといった極端な判断をする子どもは見られなかった(図13)。最後まで様々な視点から見て思考の揺れの中で考え、価値判断し、未来を「そうぞう」しようとした姿であると言えよう。

(5) 2020年代に入った今と未来の経済教育に活かすために

本実践では、俯瞰して多面的・多角的に対象を見つめ、価値判断し、未来を見通すように

単元を構成した。成果となる部分もあったが、課題となる部分もあった。

例えば、一つ目に図1の「ふりかえりシート」や図9の板書に見られるように、価値判断をする内容が公的判断（国や地域としての判断）に偏っていた点が挙げられる。社会科の学習であるので私的判断も価値判断の材料としてより明確に示して組み込んでいけば、経済的分野で言えば、「消費者としての視点」や「労働者としての視点」からも、より思考を深めることが可能であったのではないかと推測される。

また、二つ目に単元の終盤で、子どもたちが社会と関わりながら本単元の経済的分野の学びを深め、外部評価を受けられるような場の設定があれば、そこを起点により経済的分野の学習に興味をもったり、未来を「そうぞう」する学びに価値を見出したりすることが可能であったろうと考えられる。

以上のような点に着目し、2016年度から2019年度にかけて、授業研究及び実践を進めるようにしてきている。昨今のコロナ禍において経済的分野の学習はより注目して進めていくべきものの一つであると考えている。日本経済は戦後最大の落ち込みを見せる状況となってきた。どんな状況下にあっても、より多面的・多角的に対象を見つめて考え、価値判断し、よりよい未来を「そうぞう」していく力をもった子どもたちを育てていくためにも、経済的分野の視点を大切にしていきたい。

#### <参考文献>

全国民主主義教育研究会(2014)『主権者教育のすすめ』同時代社

筑波大学附属小学校 社会科教育研究部(2015)『社会を考えて創る子どもを育てる社会科授業』東洋館出版社

広田照幸(2015)『高校生を主権者に育てる～シティズンシップ教育を核とした主権者教育～』学事出版

丹松美代志・丹松美恵子(2019)『教えるから学ぶへー協同的学びとの出会いー』晃洋書房

大阪教育大学附属平野小学校 (2019)『未来を『そうぞう』する子どもを育てる授業づくりとカリキュラム・マネジメント』明治図書